

いくらで発注すべきかについては記載がない。

あくまで印象論になりますが、セミナーに参加している**女性投資家**の方々は日ごろのショツピンクで「いいものを安く買いたい」という意識が高いせいか、「安くなったら買う。高くなったら売る」という**逆張り志向が強い**面があります。そのため、相場が比較のおだやかなときは、こつつ利益を積み上げて堅実に儲けていくタイプが多いのが特徴です。

ただ、自分が行った取引に対して強い愛着を感じているせいか、損切りが苦手な方が多いようです。

一方、男性は？ というと、よりハイリスク志向で、「こうすれば儲かる」といった必勝法や投資ロジックが大好きな面があります。ただ、自らの投資理論に酔ってしまって、予想が外れても「いや、私の考えに間違いはない」と**独善的**になってしまうのが**弱点**といえます。

私の観察では、自分の失敗を素直に認めて、さらけ出せる人や、他人の意見も素直に取り入れられる人が**FX**で成功しやすいように思います。人生同様、自分の性格を客観視でき、感情や欲望をうまくコントロールできることが、**FX**の世界でも大切なのです。

約定 やくじょう

また、「為替レートがいくらでもいいから取引する」という「**成行（なりゆき）注文**」を選んだ場合、取引画面に表示されているレートに比べて、**実際の約定レート**がかなり不利なものになってしまう「**スリッページ**」（「価格が滑ること」の意味）が発生するケースもあります。

値動きの中にトレンドを見つけ

て、それに沿って取引することを「トレンドフォロー」といいます。

上昇トレンドが明確なときは**買いで勝負**するのが基本になります。最も一般的なのは、上昇トレンドが小休止していったん下落したあと再上昇に転じたところで買う取引です。上昇が小休止することを投資用語では「押し目」といい、そこで買う取引は「押し目買い」と呼ばれます。

むろん、上昇トレンドが加速して勢いよく高値を更新する動きに便乗した「**追随買い**」も有効です。ただ、こちらは急上昇中に買うことになるので、その後、急落して**思わぬ高値づかみ**になるリスクもあります。また、上昇トレンドでは原則として**新規売りの取引は控えます**。

一方、下降トレンドが明確なときは、**下落が小休止して反転上昇したあと再び下落に転じたところを狙う「戻り売り」、**下降トレンドが加速して急落が始まった瞬間に便乗する「**追随売り**」が有効です。

上昇トレンドが**じわじわ上がる**ことが多いのに対し、下降トレンドは**短期間のうちに急激に下落**することが多いので、初心者には見極めが難しいかもしれません。ただ、いっきに大きく下がるので、予想が当たれば利益も大きくなります。

横ばいトレンドではレンジの高値近辺から下落したら売り、安値近辺から反発上昇したら買い、という取引で臨みます。為替レートが横ばい相場の高値を超えて勢いよく上昇したら追随買い、安値を割り込んで下落したら追随売りも有効です。

トレンド転換が起こったら、過去のトレンドに乗った取引は**すぐに利益確定または損切り**すべきです。トレンド転換をいち早く察知して、**新トレンドが発生した最初の瞬間に便乗**できると、得られる利益も大きくなります。トレンド転換はある意味、FXの“**稼ぎ時**”なのです。

200日線は為替レートの下落を阻む強力な支持線、上昇を阻む抵抗線として働くことが多く、上昇トレンド継続中に為替レートが200日線近辺まで下落後に再上昇を開始した場合は絶好の押し目買いポイントになります。下降トレンド継続中なら、為替レートが200日線を突き破れずに反転下落した地点が絶好の戻り売りポイントになります。

逆に上昇トレンド中の200日線割れ、下降トレンド中の200日線超えは今までのトレンドが大転換する強いシグナルになります。

200日線だけだと為替レートとの距離が離れている期間も多いので、より短い120日移動平均線も表示するのがいいでしょう。



ボリンジャーバンド+平均足

±2σからの反転と平均足の転換のダブルチェックで
相場の山と谷を的確にとらえる

ローソク足は平均足を
表示させる



平均足はローソクの上辺・下辺が前日と当日の値動きの平均値（始値、終値）を示しており、上昇トレンドなら陽線、下降トレンドなら陰線が続きます。

「平均足が陰線から陽線に転換（陽転）すれば買い」「陰転すれば売り」と売買判断も非常にシンプルです。

一方、ボリンジャーバンドの欠点は為替レートが±2σに到達したとき、逆張りか順張りか迷うところ。平均足を併用し、±2σからの反転と平均足の陽転・陰転の同時点灯で逆張りというルールで取引すると相場の山と谷を的確に狙えます。初心者にもわかりやすい点が魅力です。

たとえば、移動平均線はある期間中の終値の平均値ですが、その期間中の投資家がすべて終値で売買したと仮定すれば、投資家の平均購買レートと考えることもできます。

もし現在の為替レートが移動平均線より上であれば、その期間中にその通貨ペアを買った投資家は平均すると儲かっていることとなります。逆に売りで勝負した人は損をしている計算です。当然、儲かっている買い手のほうに勢いがあるので、「これまでより高いレートでも買う」という新規投資家も参入し、買いが買いを呼ぶ形で為替レートが上昇していきます。

売りで勝負したものの、為替レートの上昇で損失が拡大した投資家たちもまた、損切りの買い決済注文を急いで出します。売り手のこうした決済買いが為替レートをさらに押し上げる圧力になるのです。

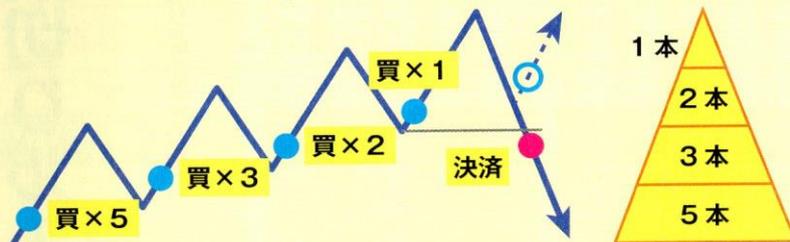
チャート分析の際には、単純にチャートの形を見て幾何学的に判断するの

ではなく、投資家の人間くさい欲望や感情の変化を思い浮かべましょう。それがチャート分析上達への近道です。

FXのさまざまな取引手法を覚えよう

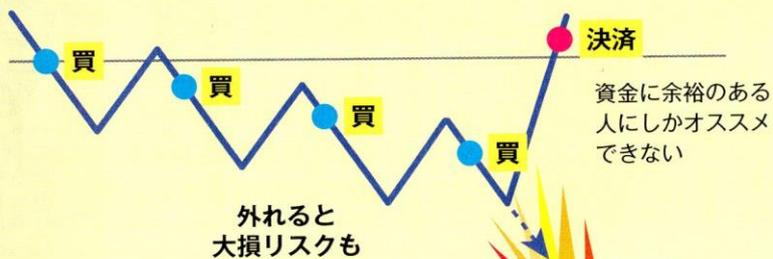
ピラミッティング

最初に大きく買い、予想が当たったら少しずつポジションを積み増して大きく儲ける



ナンピン

予想が外れても買い続け、平均買値を下げる



ドテン

予想が外れたら即損切りして反対方向の売買を行い、値動きに追随する

